



I 今年度の取組目標と自己評価

【学校運営】

【重点目標1】併置校の強みを生かした学校運営の推進

(1) 学習指導要領に則った年間指導計画、個別指導計画を軸とした教育課程の改善をテーマに、3か年計画で研究に取り組んだ。学習評価については個別指導計画様式の変更、内容の理解、評価の実際に関して研修計画に沿って、組織的に実施した。

研究1年目として教務部、研究部が二本柱となり「学びの地図・小平スタンダード」の確立に向けた研究を推進した。次年度に向けて、国語の言語能力向上に向けた観点での授業実践、算数の「小平スタンダード」作成、生活単元学習の、教科「生活」を視野に入れた授業改善へと、新たな課題が明らかになった。

(2) 肢体不自由教育部門と病弱教育部門が研究活動等において連携し、共有や協働のできる指導方法・内容、教材等の開発及び実践を進め、併置校としての教育内容の充実を図るため、全教員が、担当する児童・生徒の指導方法改善に直結する研究に取り組み、2月17日に3分科会における合同研究報告会を行い、両部門の研究活動について共有を図った。

(3) 計画的な図書購入により授業で活用しやすい図書室の環境整備を行い、ICT機器やデジタイズ図書を活用するとともに、教員、PTAによる読み聞かせ会を実施した。発達段階やニーズに応じた書籍の活用、図書コーナー・図書室の実現を図り、保護者参画による子供たちの図書活動の充実にに向けた取り組みをスタートさせることができた。

地域図書館との連携、小平ビブリオの実施など図書プロジェクトのメンバーが新しい取り組みに挑戦し成果を出した。次年度に向け、「定着と発展」させることで教職員の意識の醸成を図っていくことが課題である。

(4) 4名の外部専門家による研修等を活用し、専門性の高い肢体不自由教育・病弱教育を提供した。

①元東京学芸大学教職大学院特命教授 三室秀雄先生

②尚絅学院大学教授 小池敏英先生

③昭和大学大学院保健医療学研究科准教授 副島賢和先生

④元筑波大学教授、前筑波大学附属桐が丘特別支援学校校長、元文部科学省初等中等教育局特別支援教育調査官 下山直人先生

学校介護職員、病弱教育支援員については、研修やOJTによって専門性を高めるとともに、教員と連携した教育を展開することに努めた。

(5) 児童・生徒の生活している環境や実態に応じて、効果的なICT機器の活用による授業展開、改善を行った。オリヒメ、視線入力装置等を児童・生徒の個々の実態に応じて活用し教育の充実を図った。

(6) 病弱教育部門において各病院との連絡会を計画的に実施し、児童・生徒のQOLを高め、訪問する病院との連携の更なる強化が図られた。病院訪問教育マニュアルを活用し、安心・安全な病院訪問教育を実施し、全国の病弱教育への発信源となった。また、都内都立高校への病弱生徒のために編入での学習の継続についての発信を行った。

■ 数値目標	年間指導計画「小平スタンダード」の作成	年度未完成	【国語版】完成 B
■ 数値目標	肢体不自由教育部門、病弱教育部門合同の研究会実施	年間2回以上	5回実施 AA
	オンライン等を活用した共同研修会の実施	年間10回以上	校長4回その他7回 A
■ 数値目標	学校評価（保護者・教員）「新個別指導計画により、		保護者92% A
	内容、評価、説明が充実した」	90%以上	教員 89% B
■ 数値目標	学校評価「学校図書館の環境整備が進み、		保護者81% B
	図書を活用した学習が充実した」	90%以上	教員 75% C
■ 数値目標	近隣図書館との連携、教職員や保護者による		
	「読み聞かせの会」実施	年間3回以上	21回実施 AA
■ 数値目標	学校評価（関係病院）		
	「病院と連携が十分であった」（病弱教育部門）	90%以上	関係機関87% B

■ 数値目標 ICTを活用した ①授業改善、②教材作成、③遠隔授業の実施

全教員が2項目以上実施 実施 A

■ 数値目標 全肢研、全病連、関肢研、関病連への研究発表 各1回以上

ポスター6本発表 A

【学習指導】

【重点目標2】社会に開かれた教育課程の実現に向けた教育活動の充実、指導力の向上

- (1) 個別指導計画作成の見直しを図り、授業内容、手だて、評価法を確立させ、**肢体不自由教育部門、病弱教育部門**両部門で全学部共に**観点別学習評価**を行い、3観点による評価の記載、評価についての保護者への説明を行った。学校だよりや保護者会での発信を通して、保護者による個別指導計画作成への参画意識を高めることにつながった。
- (2) 総合的な教育力を向上させるために肢体不自由教育部門、病弱教育部門合同で年間指導計画の見直しを図り、**国語**に関しては**言語活動を念頭に置いた、学び落としのない「小平スタンダード」**の作成、**生活単元学習**について、**教科「生活」**を根底に置いた**年間指導計画**の作成を行った。
- (3) 読み書きや計算など、特定の学習の習得に困難さを抱える児童・生徒に対し、学習習得状況や教育的ニーズを的確に把握し、学習方法の改善を図り、**尚絅学院大学教授 小池敏英先生**の御協力のもと、**実態把握を数値化し、保護者、教員と共有。授業改善に大きくつながった。**
- (4) 教職員が**授業者サポート会議**を活用することにより、自己の授業をしっかりと振り返ることができ、指導力の向上が図られた。
- (5) 学習アドバイザー、授業アドバイザー（個別学習・授業デザイン）を活用することにより、個に応じた指導の質が高められた。
- (6) **指導教諭が全教員の授業観察を行った。他校への支援はもとより、校内においても組織的に中心的役割を果たし、年間を通じた授業改善に貢献した。**
- (7) 自作教材や指導方法などの教材・教具及び資料の共有化が図られ、授業内容の充実につながった。
- (8) 「あいルーム」をGIGAスクール構想の拠点とし、ICT機器を積極的に活用した授業実践を推進した。保護者への一層の情報提供、対外的な発信が次年度への課題である。

■ 数値目標 新様式の個別指導計画の作成と3観点による評価の記載

全教員が前期終了まで 前後期とも実施 A

■ 数値目標 学習の習得状況の把握と指導方法の改善・検討

各学部・各課程で1ケース以上検討 小2中4高9 計19ケース A

■ 数値目標 授業者サポート会議への参加

全教員が1回以上 全教員が参加29回 A

■ 数値目標 授業アドバイザー（授業デザイン）による指導

年間7回以上 7回実施 A

■ 数値目標 指導教諭等による全教員の授業観察と指導・情報の発信

年間100回以上 103回 A

■ 数値目標 学校評価（保護者）「ICT機器を積極的に活用した授業が行われた」

80%以上 保護者 78% B

【重点目標3】専門性のある人材を活用した教育の充実

- (1) 児童・生徒が安全・安心な学校生活を送るため、教職員の児童・生徒理解の充実を図り、**根拠に基づいた予見・予測による指導力を高めるための研修**を行った。
- (2) 外部専門家（OT、PT、ST、心理、視機能、摂食等）の有する知識・技能や経験を十分に活用し、児童・生徒の授業場面や生活場面における指導の専門性を高めることができた。外部専門家（OT、PT、ST、心理、視機能、摂食等）の有する知識・技能や経験を十分に活用し、教室への指導の場面を設定した。児童・生徒の授業場面や生活場面における指導の専門性を高めることができた。
- (3) **自立活動教員による教室巡回により、児童・生徒の学習時の姿勢や摂食指導の改善**が図られた。
- (4) 安全な摂食、医療的ケアの実施のために、外部専門家、看護師等による指導、研修を計画的に行った。
- (5) 主任非常勤看護師2名、総合非常勤看護師2名を活用し、組織的な医療的ケア体制の充実を図った。
- (6) 学校介護職員、病弱支援員等の専門性向上を図るための研修を指導教諭により細やかに計画的に実施し、児童・生徒理解を図った。
- (7) 肢体不自由教育部門において主任学校介護職員3名を組織的に活用し、学校介護職員と教員との協働体制の強

化を図った。

- (8) 児童・生徒の興味・関心の幅を広げるために、外部の社会貢献企業や個人等を活用した教育活動を計画的に展開した。

■ 数値目標	学校評価「専門性のある人材の活用が教育充実につながっている」	保護者 90%	AA
		教職員 80%	A
■ 数値目標	摂食、医療的ケアに関する全校研修	年間2回以上	2回実施 A
■ 数値目標	医療的ケアにおける事故	0件	0件 A
■ 数値目標	学校介護職員対象研修会の実施	年間8回以上	8回実施 A
■ 数値目標	主任学校介護職員連絡会の開催	年間8回以上	10回実施 A

【生活指導・進路指導】

【重点目標4】地域と連携した安全・防災教育の推進

- (1) 総合防災訓練、宿泊防災訓練等を無事計画通り実施することができたことで、学校危機管理マニュアル等の精度を高め、次年度に向けた計画へ反映させた。
- (2) 業務継続計画（BCP）を取り入れた防災計画、新型コロナウイルス感染症危機管理計画をもとに、防災対策、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、学びを止めることなく学校運営を継続することができた。
- (3) 防災教育推進委員会等を活用し、意見をいただくことができ、毎月の避難訓練をより実質的な内容に改善するための方策の整理が図られた。
- (4) 校内外の安全確保、非常災害時の緊急対応のため、関係機関と連携した訓練等を実施し、地域との連携構築のため職能開発校での訓練に参加し、防災についての意識の醸成を図ることができた。また本校の避難訓練へも参加していただき地域機関への理解啓発を行った。
- (5) 校内出入り口の防犯面の対応のため、児童・生徒在校時の正面玄関の施錠の徹底を実施した。校内物品整理、廃棄物品の整理を行った。

■ 数値目標	避難訓練、総合防災訓練の確実な実施	計画通り実施	A
	学校危機管理マニュアルの見直し 年度末までに改訂	見直し改訂実施	A
■ 数値目標	防災教育推進委員会の避難訓練視察と意見聴取	年間1回以上	11月に実施 A
■ 数値目標	警察、消防等の関係機関と連携したセーフティ教室、不審者対応訓練等の実施	年間3種以上	3種実施 A
	地域合同防災訓練への参加 生徒等の直接参加	職能開発校へ主幹教諭参加	B
■ 数値目標	校内出入り口防犯対策強化の実施	早急に（6月末まで）	7月から実施 A
■ 数値目標	物品整理の計画的実施（一斉整理日の設定と随時整理）	全校整理日年2回以上	長期休業2回実施 A

【重点目標5】個に応じたキャリア教育、心の教育の推進

- (1) よりよいキャリア発達を支援するという視点に立った進路指導を組織的に行い、卒業後の希望の進路先への決定に結び付いた。
- (2) 進路指導に関する情報を様々な媒体を活用して発信することで保護者や地域関係機関等の理解を進めた。
- (3) 職業教育及び進路指導の充実のために、個別の移行支援計画をそれぞれの進路先へ確実につなげた。
- (4) 児童・生徒の人権を尊重した教育を実践するとともに、児童・生徒が自他の命を大切にすることを育む指導に取り組み、いじめのない、豊かな心をもった子供たちの育成に力を尽くすよう努めた。
- (5) 児童・生徒の指導の改善・充実のための支援会議をニーズに応じ、方法も工夫し、迅速に実施した。
- (6) 18歳成人に対応した主権者教育、消費者教育等の指導に取り組み、社会人としての意識を高め、障害と向き合い「未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に身に付ける」ための教育を推進した。

■ 数値目標	学校評価「キャリア発達支援の視点に立った進路指導が実施されている」	85%以上	保護者 83%	B
■ 数値目標	進路指導講演会の実施回数	年間1回以上	進路セミナー実施	A
■ 数値目標	進路関係諸機関との懇談会の開催	年間10回以上	13回実施	A

■ 数値目標	進路指導に関する動画「進路Tube」のホームページへの掲載	年間10回以上	4回掲載	C
■ 数値目標	校内におけるいじめ未解決件数	0件	0件	A
■ 数値目標	年間指導計画「小平スタンダード」における「主権者教育、消費者教育」等の記載	年度末まで	作成・記載	A

【特別活動・その他】

【重点目標6】地域支援力の向上

- (1) コロナ禍における副籍交流の充実のために、地域指定校との連絡を丁寧にとるとともに、保護者の理解と協力を促進し、状況に応じた交流活動によって障害に対する理解推進を図った。
- (2) 学校生活支援シートの活用を積極的に行い、家庭、教育、医療、福祉等との連携を図り保護者のニーズに寄り添いながら教育活動に取り組んだ。
- (3) コーディネーター業務を充実させ、地域の教育委員会からのニーズに寄り添い、各学校との連絡会、訪問等様々な方法で情報共有を進め、積極的支援を行った。
- (4) 近隣高等学校、大学等と連携を図るとともに、学習ボランティア「こだいらサポーター」の参加により地域との開かれた教育課程を充実させた。
- (5) ホームページ（HP）への動画の掲載などを活用した一般市民の教育活動の見学の促進や、個別の相談へも適時・迅速に応じ、ボランティア養成講座の3年ぶりの実施など、学校及び障害者への理解啓発を推進した。
- (6) 学校教育活動や地域における様々な活動をあらゆる媒体（HP・マチコミメール・ドリームプロジェクト・校門前掲示板）を活用して適時・迅速に発信した。HPの一層の充実は次年度に向けての課題である。
- (7) 豊かな学校生活と家庭生活を支援するPTA活動に参画を要請し、図書読み聞かせ、本の修理等「ハピこだブック」の活動が充実した。また「富士見図書館友の会」による40年にわたる人形劇サークルとの活動の再開など地域との連携に向けた取り組みが充実した。

小平養護・特別支援学校同窓会が、56年にわたる継続的な活動を評価され「障害者の生涯学習支援活動に係る文部科学大臣表彰」を受賞した。

■ 数値目標	特別支援教育コーディネーターの学校等支援活動	年間25校（園）以上	肢体5校 病弱20校	A
■ 数値目標	地域での生活を豊かにする情報提供「ドリームプロジェクト」発行	年間10号以上	年間10号発行	A
■ 数値目標	学校ホームページの更新	年間85回以上	年間106回更新	AA
■ 数値目標	放課後等デイサービス事業所との連絡会	年間1回以上	連絡会実施	A

【重点目標7】スポーツ教育の推進によるレガシーの構築

- (1) 肢体不自由教育部門、病弱教育部門の併置校の強みを活かすとともに、スポーツ教育推進校の実績を踏まえ、生涯にわたってスポーツに親しむための基礎を身に付ける学習を促進した。
 - *ふれあい感謝状2 | 特別賞受賞 小平スポーツクラブポッチャ部
 - *東京都教育委員会児童・生徒等表彰 小平特別支援学校ポッチャ部選抜チーム
 - *第2回ポッチャユニバーサルボウル東京大会リーグ戦3位
 - *第7回全国ポッチャ選抜甲子園全国大会第3位
- (2) 新型コロナウイルス感染症の状況を十分に見極めて、近隣の学校等や地域住民との障害者スポーツを通じた交流を実施し、障害者理解の推進を図った。
 - *東京都障害者スポーツ大会参加
 - *CACカップ学生ポッチャ交流戦参加
 - *ハンドサッカー交流会参加
- (3) 社会貢献活動モデル事業実施校の実績を基に、地域へのごみ拾いなど生徒が積極的に社会貢献として取り組んだ。
- (4) 関係機関と連携して都立学校活用促進モデル事業を実施し、地域における生涯スポーツ活動を推進した。

- 数値目標 障害者スポーツを活用した学校間交流の実施 年間7校以上 肢体6校 病弱1校 A
- 数値目標 障害者スポーツを活用した
肢体不自由教育部門、病弱教育部門の交流 年間1回以上 肢・病部門間でのボッチャ A

【重点目標8】魅力ある学校環境・職場環境の整備

- (1) 誰にでも優しく、分かりやすく、生活に活かせる校内表示の整備と活用を推進した。
- (2) 廊下や教室の整理・整頓、不要物品の計画的な廃棄、掲示板の整備・活用等を組織的に実践した。次年度向けでも継続し、校内整備を徹底していく。
- (3) Teams、Zoom、Skypeの有効活用による会議の実施を行い、紙媒体を減らしクリーンデスクの徹底等により個人情報安全管理の徹底を図り、個人情報紛失0を徹底した。
- (4) 「おもてなしプロジェクト」として、教育活動への協力者に積極的に感謝の意を伝えることを行い、子供たちの「心の教育」を充実させた。
- (5) 人権研修の実施や自己点検等を活用し、体罰を決して行わない行かせない環境を整え、意識の醸成を図った。
- (6) 業務の効率化を組織的に図るとともに、「おたがいさま」の気持ちを持ち、安全で健康的な働きやすい職場環境の徹底に努めた。次年度に向けて新転任者を迎えるための意識の醸成を図り、更に働きやすい環境を充実させる。

■ 数値目標	個人情報紛失事故	0件	<u>0件</u>	<u>A</u>
■ 数値目標	体罰事故	0件	<u>0件</u>	<u>A</u>
■ 数値目標	経営企画室との連携による校内物品整理の徹底 (再掲) 全校整理日	年2回以上	<u>年間設定2回</u>	<u>A</u>
■ 数値目標	「大切な日(マイ定時退庁日等)」の設定	一人年間1回以上	<u>一人1回設定</u>	<u>A</u>
■ 数値目標	勤務時間外在校時間	月4.5時間以上の教職員 年間で20%以内	<u>13%</u>	<u>A</u>

※上記数値目標についての評価

AA：目標値を大きく超えた A：目標値に達成した B：ほぼ達成した C：十分達成できなかった
D：ほとんど達成できなかった

II 次年度の課題と対応(令和4年度 学校運営協議会の委員長提言から)

今年度の成果として見られたもの(令和4年度学校運営連絡協議会委員から出された意見の総括)

- 1 図書活動・・・図書館司書を中心に図書プロジェクトの取組みを開始した
 - ・図書活動が物品購入、図書展示、配架の工夫など、改善・活発化につながった。
 - ・保護者の参画を得て、PTA活動の一環として主体的な取組がなされた。
 - ・重度の児童・生徒も参加できる「小平ビブリオ」の工夫がされた。
 - ・1階図書コーナーの入りやすさ、関わりやすさを充実させた。
- 2 教育活動
 - ・コロナ禍の制限がある中で、ICT機器等を活用し、授業を大切にしていることが感じられる様々な取組がされている。
- 3 個に応じたキャリア教育
 - ・小学部から中学部、高等部へとつながるキャリア教育について、系統的な取組がされている。
 - ・児童・生徒が、係や役割を仕事として意識できるような教員の言葉掛けに注目した。
 - ・生徒が、自分の思いや要求を言語化することに取り組める授業設定がされている。
- 4 進路指導
 - ・進路Tubeの内容が充実している。
 - ・活用してもらうためのHPの提示の仕方、保護者への宣伝などの工夫が必要。
- 5 学校入口の防犯対策
 - ・保護者から例年出ていた不安の声がなくなった。
 - ・児童・生徒が校内で安全に授業に取り組めるような防犯体制を確立できた。
- 6 学校評価
 - ・質問項目が学校経営計画とリンクし、整理された。

学校評価、学校の重点目標の達成状況を勘案し、次年度に重点的に取り組む事項として、以下の通り整理した。重点事項を進める際には、中心となる部署の主幹教諭・主任教諭が職層に応じた役割を組織的に果たしていく。

1 学校評価アンケートについての全面的な改定（学校運営連絡協議会の意見から）

保護者・教職員の評価は、ともに良好であり、日々の教職員の努力が評価されている。

今後に向けて、①保護者アンケートの回答率、②教員アンケートの「わからない」、③いじめや体罰の取組の3点について、改善や検討が必要である。

① 保護者アンケートの回答率

今年度の保護者アンケートの回答率が、67.9%となっていることについて、保護者全体の評価となっていないという御提言を受け、アンケートの回答に対するアナウンスの方法等への改善に取り組む。紙ベースからデータベースでの回答に変えて2年目ではあるものの、方策として学校やPTAから保護者に協力を呼び掛ける、アンケート期間を延ばすなどの配慮が必要である。

② 教員アンケートの「わからない」

教員アンケートの回答に「わからない」との回答が多かった。「良いとも悪いともどちらにも付けられない」「内容がわからない」などどのように捉えればよいか、アンケート結果からだけでは読み取れない部分がある。自校の取組みに対する意識の醸成を鑑みたアンケートの聞き方とするよう、内容を改善し、回答できるように工夫していく。

③ いじめや体罰の取組

「いじめや体罰の取組は十分でしたか。」の質問は、「いじめ」なのか「体罰」なのか趣旨がはっきりしない問いとなっている。「いじめ」は児童・生徒に関する内容、「体罰」は教員に関する内容と分けてアンケートを改善していく。児童・生徒への指導に関して「いじめ」と「けんか」の違いについて理解を促すことも重要である。

2 必要な情報の共有を徹底、安全・安心な学校の継続

- ・コロナ感染症対策の継続と東京都教育委員会の指導の下、学校の状況に応じた柔軟な対応…基本対策の徹底、迅速な情報収集、情報提供、保護者・近隣施設・病院との連携を継続する。
- ・安全に関する環境整備…校内物品整理の充実を図る。（不要物品を廃棄して空間を有効活用）

3 学習指導要領に準拠し、児童・生徒が確かな学力を身に付けられる学校づくり

- ・児童・生徒の教育的ニーズ（医療的ケアを含む）を的確に把握し、個別指導計画・学習評価の一層の明確化と、キャリア発達の視点を踏まえた授業づくりを実践する。

4 児童・生徒にとって魅力ある図書コーナー・図書室のより一層の環境整備と情報発信、蔵書の充実

- ・発達段階やニーズに応じた書籍の活用…アニメや雑誌等の活用の充実を図る。
- ・近隣図書館との連携…POPを活用した書籍紹介や読み聞かせ等を実施する。
- ・図書プロジェクトの発信力を高め、「PTAハピこだブック」との一層の連携を図る。

5 ICT機器の一層の環境整備と教職員のスキルアップ

- ・卒業後を見据えた取組…ICT機器操作、対外的なメール作成などのビジネススキルの習得を促進する。
- ・ICT教材の共有、教職員の知識・技能の発信等、スキルの向上を目指す。

6 ウイズコロナにおける、病院内教育・訪問教育の指導方法や学習環境設定の充実

7 保護者や地域、関係機関において、学校からの積極的な発信による連携の充実

- ・インターネットを活用した情報発信やアンケート等の回収方法の改善…ホームページ、Zoom、Teams等を有効活用する。

8 センターの機能を発揮し、地域の特別支援教育の充実に寄与

- ・生涯にわたってのスポーツを楽しむため、地域との連携に取り組む。

9 教職員一人一人がライフワークバランスを意識し、働き方改革の更なる推進

- ・安全で健康的な、誰もが働きやすい職場環境の充実を図る。